



## 2023年のペルセウス座流星群 ざりゅうせいぐん

期待に違わず確実に出現するペルセウス座流星群ですが、今年はどうのような出現が予想されるのでしょうか。現在の予想をご紹介します。

ペルセウス座流星群の流星物質（流星の素となる砂粒や小石）は、親彗星であるスィフト-タットル(Swift-Tuttle)彗星由来のダストトレールとなって太陽の回りを親彗星とほぼ同じ軌道で公転しています。ダストトレールは、彗星が太陽に接近する毎に作られ、徐々に拡散していきます。この彗星は、133年の周期で公転していますので、紀元前から数十本のダストトレールがあり、それらが複雑に交差して現在のペルセウス座流星群を作っています。今年のメインのピークは、日本の時刻では、8月13日11時から翌14日朝6時頃と予想されます。ピークの中核は、13日の夕方なので、

**8月13日20時から24時（出来れば翌朝3時）**

まで観察できれば理想的です。天気が良ければ、1時間に50個から100個の流星を楽しめるでしょう。今年は月明かりの影響が無いので、流星観察には最良の年に当たっています。もちろん前後数日も多くの流星が見られます。

流星群は放射点（流星がその点から飛び出すように見える）が地平線の上にある限り出現が見られます。放射点の方向（ペルセウス座の方向）を見ている必要はありません。空のどこにでも現れますので、寝転がって空を眺めるだけです。

また、放射点の位置は、徐々に変化します。ペルセウス座流星群と言っても、放射点はカシオペア座にある時期の方が長く（図参照）、ちょっと見るとカシオペア座流星群に見えるくらいです。



図 ペルセウス座流星群の放射点の移動  
Rentel 2022より